

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300571		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームおとなりさん		
所在地	静岡県富士市五貫島160-1		
自己評価作成日	平成26年1月24日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyousoCd=2272300571-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成26年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念を職員全員が共通認識として、寄り添うケアの実現に取り組み、個人目標を掲げてサービスの質向上に努めている。

・平成25年度は、顧客満足を目指しISO9001認証取得を目指し取り組んでいる。

・人材育成に力を注ぎ、法人・グループとして取り組んでいる研修や勉強会の体制がある。

・平屋造りの開放感がある建物で、デッキや畑、庭には芝生に果樹など四季を身近で感じることが出来る環境がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全体の6割が介護福祉士となり意欲とともに技術も習熟する一方で、優しいクリーム色に心やすらぐ平屋造りの事業所には野菜畑や果樹が育つ庭もあり、ゆったりと時間が流れています。また法人が定める『こやまケア』を簡潔な言葉にまとめ、職員トイレにまで掲示していること一つとっても事業所の生真面目さが十二分に伝わります。ISO9001認証にあたってはその力を大いに活かし、「何のために取得するのか」を明確とすることで成果を高めるべく取り組みました。品質向上を顧客満足に繋げることに視点をおき、業務マニュアルを精査し、職員都合の業務消滅に向け時間をかけてケアの見直しを図った充実の一年となりました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	研修や会議等を通し、理念を理解している。また、全体会議で業務改善を行うに当たり、ケアの見直しとして実施している。	開設まもなく職員でつくった事業所理念には愛着があります。「自分がされて嫌な介護はしない」を基盤に「出会えてよかった」との関係づくりを目指し、看取りの経験から職員も「理念を確認できた」と感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行い運営推進会議で区長さんを通じながら発信している。	自治会に加入し回覧板も廻ってきています。実習生、福祉・職場体験は年間を通して常時受け入れています。また歌や踊り、演奏のほか、親子清掃ボランティアも定期的に訪れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	かけこみ110番の協力。実習生の受け入れや見学対応と相談対応等。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しているなかで、報告以外に相談をしたり、アドバイスを頂いたことは改善するよう全体会議で検討している。会議はフロアで行い現状を見ていただいている。	市担当者、地域包括支援センター、区長、民生委員、旧介護相談員、家族会代表者2名と顔ぶれも豊富に定期開催が叶っています。普段の様子をみてもらおうと居間を会場とし、全利用者、職員も参加しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、市の職員に相談やアドバイスを受けている。相談内容によっては、直接介護保険課に連絡などして相談している。	市担当者、地域包括支援センター職員の運営推進会議への出席もあり、質問事項にも迅速かつ丁寧にに応じてもらえる協力関係が築けています。事故報告には対策面でのアドバイスももらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関等の施錠は行っていない。身体拘束の研修なども受けおり、基本本人の意向を尊重し職員によるスピーチロックの意識付けも行っている。	定期で接遇マナーチェックを行い「自分がされて嫌なことはしない」との基本姿勢を確認しています。また職員休憩室には『ダメ！立つ！行くよ！自分の親に言えますか』の標語を掲げ「利用者は自分を映す鏡。自分が変われば相手も変わる」と気づきを促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待についての研修に参加し、事業所にて勉強会を行い、日々の業務に活かされるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への研修参加や学ぶ機会ができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容・重要事項内容について説明をし、変更等ある場合は個々に説明をに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートの実施。 またそれに伴い改善、実施、報告を行い、ご家族にアンケート結果と改善内容について個別にて郵送している。	年4回の家族会は茶話会式で意見交換も活発です。また消耗品補給を家族にお願いすることで面会もコンスタントにあり、日々の報連相もできています。アンケートでの苦言は議題にのせ、迅速な改善に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年3回の個別面談と、必要時面談や相談に対応している。	上期下期に分け個人目標管理を行い、自己評価では研修希望の聞き取りも行っています。個別面談はありますが、形式的な場では発言できない職員もあり、気になる時には声をかけて話を聞いています。	新人や経験不足の職員をフォローするチームワーク形成やOJTの仕組みが進むことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理を行い、年度を通じ半期ごとの目標の進捗状況確認面談を行い意欲向上につなげている。また、リフレッシュ休暇・ハッピー休暇を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	湖山Gや法人内研修等個別に年間計画として目標に組み入れ実施している。併設の施設との合同委員会や勉強会にも参加し、スキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会、グループホーム連絡会に参加。年1回の合同研修にも参加。法人内でも研修等で交流が図れる仕組み作りをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定前に本人面談と家族から話を聞き会議で話し合いを行っている。日常でもお客様の声に耳を傾け、企画実施等につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、重要事項説明を行い、ここまでに至った経緯や苦労話を聞き、要望を取り入れる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に、現段階でどのサービスが適切か見極め対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす中で、入居者の得意分野の話を聞きだし、情報共有をしている。入居者の方に出来る事を職員と一緒にやっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に過ごす時間を企画している。来訪時、日頃の様子を伝えながら間にはいる工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の重度化に伴い、外出することが困難になってきている方も増えているので、積極的な支援は出来ていないが、親類や友人の方の来訪を歓迎し、一緒に過ごす時間を設けていただいている。	祭りには親戚全員が集まって食事をしたり、温泉仲間の訪問もあります。行きつけの美容師を呼んでパーマをかける人、高齢となってもお茶を持参して集う兄弟もみられ、地域密着としての利点を享受しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、関係性を保っている。冗談を言いながら、笑いあう場面も多く見られている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなって退居される時も、通夜等に行かせていただいたり、皆さんで撮った思い出写真があるので、いつでもお立ち寄りくださいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスやセンター方式等を利用し、検討している。	本年度は家族協力も得てセンター方式C-1-2シートでアセスメントを取り直しました。関わりから本人の得意を見出し、さらに書道師範の家族支援を仰ぎ作品として福祉展出展に至った例もあり、担当制が光ります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報収集やサービス担当者会議にて把握するよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況やバイタル表を活用し、申し送りながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、全職員の意見を反映し介護計画を作成している。	毎月のケアカンファレンスでは担当者が全職員に意見書を通じて聴取しており、現場職員が中心のプラン作成が実現しています。サービス担当者会議でも主軸は担当で、モニタリングは毎月ケアマネージャーが行います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にて、日々生活記録や医療連携記録等に記録し、職員間で朝夕の申し送りで、情報共有をおこない、毎月のサービス担当者会議にてモニタリングを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各主治医を始め、併設施設(老健)、同法人(湖山リハビリテーション病院等)と連携を図りニーズに応える努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、慰問等で外部との交流の場を設けている。グループホーム連絡会に参加し、情報交換や交流会にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各主治医と定期的な往診対応にて連携を図っている。	かかりつけ医を継続している人が6名おり、受診は基本的に家族にお願いしています。遠方から毎月受診に同行する家族もあり、バイタル情報を手渡しています。結果はよく聞きとりをして毎日の業務と連動させています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設(老健)看護師と、定期的に来訪してもらい健康管理を行っている。緊急時対応等にも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連携を取り、入院先への訪問で状況把握を行い、病院関係者のSWや関係者と情報の共有をサマリーや連絡等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状「看取り介護」に取り組んでいる。家族説明後、意向によって主治医に相談し、同意書を交わした後に会議で確認を行い取り組んでいる。	看取った利用者家族から「ずっと介護職を続けてほしい」と告げられた職員は「ゴールのない仕事だがやりがいがある」と言い、管理者も看取りが職員をさらに成長させていると感じています。平常時は週3回ですが、ターミナルではほぼ毎日看護師が来所しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはあるが、定期的の実践訓練まで行っていない。会議で各ケース対応等の話し合いは毎月行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。区長さんが、地域住民へ協力依頼をして下さっている。	法定訓練を想定を替え行っています。予告なしで試みたところ、「初期消火はできたが火災報知器と通報機に取扱いの理解不足があった」「発災場所による誘導の優先順位が不明瞭」と新たな課題発見となりました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇自己評価などを用いて、意識づけを行っている。気づいた点は伝えあうようにしている。	接遇自己評価シートは会議を通じて認識を共有させていますが、改善が見られなければ個人面談で伝えていきます。同性介助の要望にも応え トイレにはエチケットタオルを用意し排泄時の羞恥心に配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事など、「何が食べたいですか？」など伺ったりしている。また小さな感情表現を大切にし、笑顔が出る関わりを行い、自己決定を尊重できるように意識しながら対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせるよう心がけているが不十分なときもある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容にて身だしなみを支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人にあった食事形態を検討実施している。食事の調理、盛り付けや食器拭きなども手伝っていただいている。	食材は買い出しに出かけ、栄養士が作成した献立を参考にして職員が調理しています。野菜の下ごしらえが得意な利用者には「大根があるけどどうする？」と投げかけ、食器拭きも役割が決められています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はその都度記録し、確保できるよう支援している。栄養バランスでは、4つの食品群を活用し意識している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。週1回、歯ブラシセット消毒と、義歯の消毒を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ排泄を基本と考えて個別に合わせて対応している。	パターンがつかめるまではチェック表を活用しています。重度化しても座位保持が可能な限り「トイレでの排泄を」との考えをもって自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り歩行支援を行い蠕動運動を誘発できるよう支援している。主食に寒天を使用し毎日提供し、工夫をして下剤を減らす努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化に伴い、二人介助が多くなり、職員配置上で午後の時間で入浴していただいている。	職員二人での介助が増えるなか、それでもできるだけ湯船に浸かる満足感を味わってもらっています。湯を張り替え、好みの入浴剤を使い、入浴できない人は清拭を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体位の工夫や睡眠時間の把握をし、不眠の翌日などは、日中休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、内服薬チェック表、申し送りにて確認をしている。主治医と薬剤師に相談や確認を行い、変更等についてはご家族に説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に情報をいただき、出来る事をしていただいたり、企画を個別にて実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	企画などを通し外出している。状況によってはご家族も同伴もしている。	遠方から訪れる家族は、決まって自宅や外食に連れ出してくれます。個別外出計画として本人からの意向を聞き取り、プラネタリウムに出かけたこともあります。ドライブには花鳥園や富士川楽座、バラ鑑賞と多彩で、外食も鰻屋、蕎麦やとんかつが好まれています。	外気浴や体操レクリエーションなど、365日日々の1日の過ごし方や軽運動について職員間で一度話し合われることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の方は、家族希望にて小銭を所持しているが、他の方は預り金にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状を書けるお客様には書いていただいている。担当者が毎月、ご家族様へ日頃の様子を伝える手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感を感じてもらえるよう提示ボードに自作品等を飾っている。室温の調整や採光・換気など気を付けている。	シーリングファンが回る高い梁天井は開放感があり床暖房が柔らかな温もりを伝え、床の間と掛け軸が落ち着きのある空間を醸し出しています。掃き出し窓から広いウッドデッキに出られ、梅や桜、藤や金柑といった眺めが楽しめます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の座席は固定化してきているが、自分で移動できる方へは、自由に過ごしていただき、庭に出てベンチに座っていたり、居室にて横になったりしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にあるものは、ご本人が以前から使われていた物や、昔の写真や家族集合写真等が置かれている。	居室入口には三角コーナーがあり、そこに何を置くかで個性が現れます。衣類にこだわりがある人は衣装かけでいつでも着替えられるように配慮され、その人の想いに沿った支援が成されていることを確認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設してから10年以上たち、ハード面において十分とは言えないが、危険箇所は保護するなど、職員が出来ることは手を加え工夫している。		